



米子市福市考古資料館通信

第7号

2022年12月



企画展3「発掘された陶磁器」のご案内

福市考古資料館では、「発掘された陶磁器」をテーマとして企画展3の開催を予定しています。ぜひご観覧ください。

企画展3「発掘された陶磁器」 ー時代と種類ー

- 展示内容 現在、生活の中で陶磁器は主に食膳具の茶碗や皿として使用されています。古墳時代以前は主に素焼きの土器が多く使われていましたが、以降は大陸や朝鮮半島から須恵器や陶磁器がもたらされ、各時代の遺跡からは多くの陶磁器が発掘されています。この度の展示では、米子市内の遺跡から出土した陶磁器の時代と種類とを展示解説します。



米子城跡から出土した陶磁器類

- 開催日時 令和5年2月1日（水）～3月7日（月）
■観覧料 無料
■開館時間 午前9時30分～午後5時
■休館日 毎週火曜日 2月13日（月）24日（金）

展示品紹介 弥生時代の祭具（東宗像遺跡ほか）

展示室では、市内の遺跡から出土したお祭りなどで使用したと考えられる製品を展示しています。

弥生時代の祭具で、よく知られているものは銅鐸や銅剣です。島根県の加茂岩倉遺跡からは39点の銅鐸、荒神谷遺跡からは、6点の銅鐸と16点の銅矛、358点の銅剣が発見されています。

鳥取県の中部や東部からは十数点の銅鐸や銅剣が発見されていますが、鳥取県西部では伯耆町久古第3遺跡のみで発見されています。その理由は解りませんが、鳥取県西部は出雲の勢力圏であったため、出雲に集められて加茂岩倉遺跡や荒神谷遺跡に埋納されたという説があります。ただ、東宗像遺跡や吉谷銭神遺跡から銅剣を模した石剣が出土しており、祭具として使用されたとも考えられます。



東宗像遺跡の石剣

福市遺跡の四季

福市遺跡史跡公園には、色々な木が植栽されて四季を彩っています。

春は桜、初夏はツツジがよく知られていますが、秋は公園入口にモミジが赤く紅葉し、公園内のイチヨウも黄色くなり、桜や柿も紅葉を彩ります。

また、イチイガシやスダシイ、コナラの木なども植えられ沢山の実をつけます。市内の幼稚園や保育園の園児が遠足で福市史跡公園に来園してドングリ拾いを楽しんでいます。



秋の福市史跡公園

発行者 米子市福市考古資料館（指定管理者 一財・米子市文化財団）
住所 〒683-0011 米子市福市461-20番地
電話・fax 0859-26-3784（同番号）
休館日 火曜日・祝祭日の翌日・年末年始（12/29～1/3）